

## 5 第1回子ども企画委員ワークショップの様子

6月24日（日）小学6年生から高校2年生までの11名が参加し、市役所201会議室で、第1回子ども企画委員ワークショップを開催しました。

まず、学生リーダーによるアイスブレイクを行いました。

子どもたち全員参加で、誕生日順や名前画数順に並び替えをするゲームが始まると、「誕生日いつ？」「何画？」といった質問が飛び交い、お互いに協力し合い、和やかに交流ができました。



【アイスブレイクの様子】



【子ども企画委員カードの授与の様子】

次に、子ども企画委員カード授与、自己紹介を行い、「子ども☆ミライ会議」についての説明を聞きました。

平成29年度の「子ども☆ミライ会議」の記録DVDを鑑賞し、イメージを膨らませるとともに、平成30年度の子ども企画委員の役割について学びました。

今年度は、「ミライへの提言」を実現する具体的な案を検討することを確認しました。

### (1) 学生リーダーが会議のファシリテート

学生リーダーのリードによって話し合いが進められました。

事前のオリエンテーションにおける研修や運営会議に参加し、当日は学生リーダーが会議の進行役やファシリテート行いました。

学生リーダーは、これまでの経験を活かして子ども企画委員と良好な関係を築くことで、闊達な会議となりました。

はじめに「ミライへの提言」の5つの条文について、個人の意見を書き出し、



グループワークに移りました。

グループワークでは、子どもたちが、自分の意見を発表し、他の人の意見を聞いて、さらに自分の考えを深めていました。

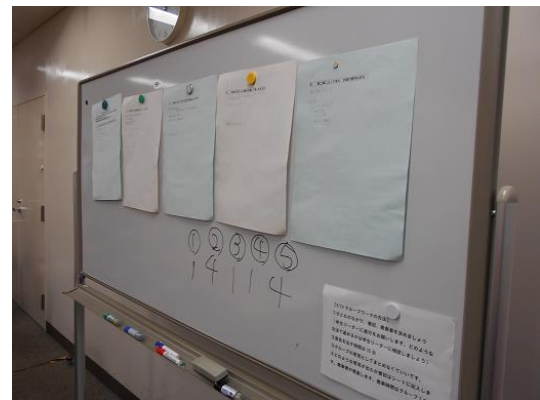
最後に、自分が発表したい条文を決定し、次回までに、その条文に関する具体的な実践案を考えて、必要な資料集めや調査をすることにしました。



【子ども企画委員の話し合いの様子 ～学生リーダーがファシリテートしました～】

## (2) グループワークで抽出した実践案

- ・大人も子どもも楽しめるテレビの企画を真似したサスケ公園をつくる。
- ・子どもにうける八王子ならではの「おみやげ（カーテン、靴下）」を考える。
- ・京王線とJRが離れすぎていて不便なのでつなげる。
- ・市内に駅の数を増やす。
- ・高尾山など身近な自然をPRする。
- ・子どものニーズ調査をして自然を活かしたイベントを開催する。
- ・子ども編集員を募って、子ども広報をつくる。
- ・笑顔、あいさつ運動を各学校で展開できるようにする。



【グループワークで抽出した実践案】

## 6 第2回子ども企画委員ワークショップの様子

7月29日（日）市役所702会議室で、小学6年生から高校2年生までの子ども企画委員10名が参加し、第2回子ども企画委員ワークショップを開催しました。

集合時間前には出席者全員が集まり、やる気が十分で、予定よりも早く始めることができました。

今回は本番で発表する自分の意見について、原稿を作成するところまで行いました。



### (1) 第一回ワークショップの振り返り

第一回目のグループごとにまとめた意見をおさらいし、それぞれの意見を大事にしようと振り返りをしました。

【振り返りの様子】

### (2) 提言担当決め

子ども企画委員が、ミライ提言のどの提言を担当するかについて、決定しました。

① 子どもが大人と一緒に楽しく安心して遊べる場所があるまち	堀田さん、毛利さん
② 犯罪がなく市民全員が安心してくらせるまち	深山さん、六車さん、佐藤さん
③ 元気よくあいさつする世界一笑顔あふれるまち	天野さん、五十嵐春さん
④ 自然を活かした観光が盛んで楽しめるまち	並木さん、五十嵐杏さん
⑤ 商工業によって栄え、交通が便利なまち	富樫さん、渡邊さん

子ども企画委員より、「『③元気よくあいさつする世界一笑顔あふれるまち』は、実践事例を提示するのが難しいのではないか。」と意見があったことから、高校生の子ども企画委員2人が担当することとなりました。

### (3) 相手に伝わるような話し方のアドバイス

「まずは、深呼吸する。」「相手を見て話す。」「ゆっくり話す。」「キーワードは強調する。」など、学生リーダーや職員から、アドバイスを受けました。

また、自分の意見をよりわかりやすく説明するためには、データを集めて、それをフリップやプロジェクターで示すことが有効だ、ということも教わりました。

#### (4) 本番に向けて原稿作成

子ども企画委員は、学生リーダーや職員からのアドバイスをもとにしながら、原稿作成と資料集めに取り組みました。

発表で強調するワードなどのピックアップや、自分の意見の裏付けとなる資料をインターネットや文献で探したり、写真をプリントしたりと、全員が積極的に取り組んでいました。

提言の「八王子はわたしたちがつくるまち」を、八王子市で計画的に実施できるように、他市区町村の実践事例も調べ、具体的な案を提示しようとの思いで、発表用の原稿づくりを行いました。

その中で、自身（子ども企画委員）が、多くの子どもの代弁者であり、代表者として発言する自覚を持って、実践できるか。また、若者、大人に成長していく過程でどのように自分が実現に向けて取組めるか。そのために、理想や期待を押し付けるだけではなく、私たち子どもが責任を持って取り組めるわかりやすい内容と課題解決の方法も検討しました。



【アドバイスを受ける真剣な様子】



【原稿を熱心に考える様子】



【発表分担をする高校生の様子】

## 7 「子ども☆ミライ会議」～市長・教育長と子どもが八王子の未来を語る～ の様子

8月26日（日）市役所801会議室で、八王子市子ども☆ミライ会議を開催しました。

小学6年生から高校2年生までの子ども大使が、「ミライへの提言」を実現する具体的な案について、事前のワークショップでまとめた意見を、市長と教育長に発表しました。

提言に対する具体的な実践についての意見発表後に、市長・教育長の答弁をもらい、意見を交換しました。

発表の合間には「YES・NOカード」や「フリップ」を使い、来場者全体に問いかける試みも行い、和やかに意見交換が行われました。



【市長挨拶】



【明快な言葉で意見を表明する高校生】

子ども☆ミライ会議の運営は、学生リーダーが中心的に担い、司会、音響、誘導、子どもの意見発表のサポートをしました。

子ども企画委員は、「学生リーダーは、子ども企画委員としての経験が豊富なので、私たちが困ったときに的確なアドバイスをしてくれました。おかげで自信を持って意見を発表することができました。」と感謝していました。



【司会の様子】



【YES/NO カードを使って意見交換をする様子】



【児童館の子どものボードを掲示】



【中学生の発表】



【教育長挨拶】

学生リーダーは、若者の立場から、八王子のミライについて、フリップカードを用いたディスカッションに参加しました。

また、各児童館で「ミライへの提言を実現するために私たちができること」についてアンケートを取り、その結果ボードを作成し、会場内に展示しました。